

沿革

1 開校経過

昭和38年ごろから紫原団地の住宅化が促進され、そのあと、急激に人口は増加し、昭和40年に紫原小学校が開設された。

さらに、昭和42年紫原中学校が開設、その後もますます人口は増加し、昭和45年に西紫原小学校が開設された。

このころ、時を同じくし、紫原台地の西部および広木住宅地区、森山団地、わけても田上地区の前ヶ迫団地の住宅化が一段と促進され、そのため田上小学校の児童数はさらに拍車をかけ、ここに第三紫原小学校、または第二田上小学校を開設しなければならない必要に迫られた。

そこで、鹿児島市教育委員会は田上小学校のマンモス化（当時1,918人）を解決するため、昭和46年から市有地であった旧紫原青年学校跡、当時一部密柑山になっていた山地を切り開き、鹿児島開発事業団によって造成することにした。この時の土砂は、昭和47年開催の国体競技場与次郎ヶ浜の埋め立て用として利用された。

このような経過を経て校地が設備され、昭和47年8月から校舎建築が始まり、昭和48年2月末に竣工し、同年4月に開校の運びにたった。

校名については、昭和48年2月、定例鹿児島市教育委員会で、鹿児島市立広木小学校と決定した。